

諸藤 元信	柳屋 健治	山下 賢治	山寺 彰	湯浅 博司	吉沢 光三	米村 信幸	渡辺 昭二
門河 良典	柳瀬 重靖	山下 聡	大和 光行	湯上 英雄	吉田 憲一	米山 富雄	渡辺 進
八木 則男	矢野 弘一郎	山下 丞二	山内 豊聡	陽田 秀道	吉田 修造	若井 修一	渡辺 隆
八嶋 厚	矢野 武彦	山田 明男	安福 規之	横川 広長	吉田 昭治	和久野 正人	渡邊 健
安江 朝光	八尋 暉夫	山田 公夫	山辺 正	横田 還	吉田 庄太	輪胡 建雄	渡辺 英樹
安川 郁夫	藪下 博	山田 清臣	山村 和也	横田 雅良	吉田 典弘	鷺谷 信雄	渡辺 秀寿
安田 進	山浦 直人	山田 孝治	山村 俊作	横山 昭夫	吉田 保夫	和田 弘二	渡辺 廣和
安田 善守	山肩 邦男	山田 周治郎	山本 栄一	横山 康夫	吉田 喜忠	和田 昭一	渡邊 将人
安原 一哉	山川 昌大	山田 清治	山本 和明	吉岡 明	吉中 龍之進	和田 照雄	渡辺 隆一郎
矢田部 龍一	山口 一弘	山田 平八郎	山本 新一	吉岡 均	吉野 裕	和田 勉	(50音順)
柳川 捷夫	山口 昭一	山田 真	山本 武夫	吉岡 誠	吉見 吉昭	和田 温之	(10月30日現在 : 1 217名)
柳澤 栄司	山口 登志子	山田 満秀	山本 哲朗	吉川 敏	吉嶺 充俊	和田 康夫	
柳沢 新市	山口 治行	山田 恭央	山本 敏夫	吉川 謙造	吉村 陸太郎	和田 陽一	
柳澤 理	山口 弘	山田 泰弘	山本 実	吉川 貞治	吉村 恒	渡辺 修	
柳澤 正敏	山崎 武嗣	山田 雄司	山本 有三	吉川 冬木	米倉 亮三	渡邊 偕年	
柳谷 健一	山下 彰	山田 裕	湯浅 忠	吉國 洋	米満 健一	渡辺 茂	

書籍紹介

土質力学—基礎土工学シリーズ15

松岡 元著

土は、砂も粘土も共に、ばらばらの土粒子の集合体である。粘土は一見土粒子間に接着剤がありそうであるが、水を入れたバケツの中にほうり込んでおけばやがてばらばらになってバケツの底にたまるであろう。したがって、鉄やコンクリートと比べれば、土は初めからこっぴみじんに破壊されたものとみることができるかもしれない。基本的には土粒子間に働く摩擦力によってのみ抵抗する材料である（もっとはっきり言えば、コンクリートから劇薬によってセメントを溶かしたような材料である）。同じ土でも地表面と深い所では土粒子間に働く力が違うので（深い所ほど土の自重によって大きくなる）、土の抵抗力（摩擦力、強度）も異なる。地表面の砂は吹けば飛ぶが、地中の深い所の砂は杭を支持する程の強度を持つのである。また土の間隙には水や空気が存在するが、例えば水の圧力が大きくなって土粒子どうしが離されると、土粒子間の摩擦力はなくなり、土の抵抗力（強度）はほとんど皆無になる。このように土は人間の直感に合わない面を持つ恐ろしくも、また興味深い材料である。間違っても、「不動の大地」などと考えてはならない。

本書は、この土という得体の知れない、やっかいな代

物を感覚的、直感的に理解させる画期的な教科書である。興味深い実験写真や現場写真が40枚も掲載されており、それらを駆使して明快な説明がなされている。また、建物下の圧力球根図も9枚掲載し、建築の分野の技術者の要望にも応えている。さらに、心ある技術者が悩む土の強度定数（ c , ϕ ）の選び方や設計上の注意点についても言及されている。著者の関係したいくつかの興味深い現場施工例も写真入りで紹介されている。ほかの土質力学の教科書を学んで、もう一つしっくり来ないという方がおられたなら、ぜひ読み比べられることをお勧めする。もし著者と周波数が合う方なら、理解しやすいと感じられるであろう。なぜそう考えられるかということを徹底的に解説している教科書である。

A5判 288ページ 1999年10月発行

価 格 3 360円（本体 3 200円）

発行所 森北出版㈱

電 話 03—3265—8341